

介護記録に見られる特徴語

—介護福祉士国家試験との比較—

古田朋子(大阪大学) 林希和子(大阪大学)

1. はじめに

令和4年に内閣府が発表した「高齢者版社会白書」によると、我国の高齢化は急速に進み、65歳以上の人口が占める割合は28.9%に達した。それに伴い、介護現場の人手不足も深刻化している。政府は経済連携協定(EPA)を締結し、平成20年度よりインドネシア、平成21年度よりフィリピン、そして平成26年度よりベトナムから看護師候補生、介護士候補生を受け入れている。しかし、介護現場で働く外国人は、それらの候補生たちだけではない。研修生として働く者や日本人を配偶者に持つ外国人なども、介護職に従事している。介護現場では、利用者(サービスを利用する高齢者)の介助だけでなく、日本人介護士や利用者とのコミュニケーション、そして介護記録の記入など、様々な業務がある。そのため、彼らは日本語の書き言葉、話し言葉、介護現場の専門用語などを習得する必要がある。特に、利用者の様子や介助について記した介護記録は、専門用語のみならず、文末の選択、待遇表現など、彼らにとって難解であると考えられる。本発表では、3年間の日本人介護士とベトナム人研修生の介護記録から、頻出語、特徴語を抽出し、特徴語については介護福祉士国家試験との比較を行った。

2. 研究目的

介護現場において、介護を利用する利用者の様子や提供されたサービスについて記載される介護記録は、石川(2008)や遠藤(2012)で報告されているように、特有の表記や施設ごとに異なる記載方法があり、一般的に理解が困難なものもある。本発表は、まず、日本人介護士3名と同じ施設で働くベトナム人実習生3名の3年間の介護記録から、頻出語を抽出し、どのような語が多用されているのかを調べた。次に、特徴語を抽出し黄・金丸(2023)によって得られた、過去10回分の介護福祉士国家試験問題の特徴語と比較し分析を行った。そして、実際の介護記録と介護福祉士国家試験問題の間にはどのような相違があるのかを明らかにした。

3. 先行研究

石川(2008)は、介護現場の日誌で使用されている語彙を品詞別(名詞・動詞・形容詞・副詞・擬態語・擬音語)に分類し、分析を行っている。それによれば、以下の特徴が挙げられている。名詞は日本語能力試験1.2級(現N1, N2)に含まれない専門用語が多く使用されており、動詞については、「専門用語+する」(日本語教育では、Ⅲグループ)のものが多用されている。また、日誌を見やすく記入時間を短縮するために、専門用語の略語・造語・施設特有の表記も多く存在する。さらに、文末表現は普通体(常体・だ体)、丁寧体(敬体、です・ます体)の混合体が全体の64%を占めていたと報告している。遠藤(2012)は、6か所の介護施設の介護記録、申し送りにおいて、使用されている用語や文章の実態を調査し、記号(+), ローマ字、短縮語や省略語、漢字を組み合わせた造語などの使用を報告している。その上、同じ行為を表すのに、様々な記述方法(例: 食べる, 召し上がるなど)があること、そして、待遇表現については、冗長的なものや誤用もあり、これらも外国人介護従事者にとっては、混乱を招く原因になっていると述べている。遠藤(2019)では、介護分野の漢字は難解でわかりにくいことを調査から明らかにし、外国人介護従事者の負担軽減のために介護用語の標準化、平易化の必要性を説いている。

一方で、黄・金丸(2023)は、介護分野における専門用語を日本語に言い換える語彙リストを作成している。言い換え対象語として、介護福祉士国家試験10回分(第24-33回)のデータを用い、形態素解析によって得られたリストと現代日本語書き言葉均衡コーパス(以下:BCCWJ)を比較し、特徴語を抽出している。上位10語は、利用者・認知症・訪問介護員・訪問介護・介護福祉士・介護老人福祉施設・障害者・通所介護・高齢者・要介護であった。また、介護用語の単語親密度調査を介護士と一般人に行い、73語を言い換えている。

4. 研究内容

本発表で対象とする介護記録（令和元年一月～令和四年八月）は、施設利用者への介助項目と自由記述で成る。図1で示したように、介護記録の内容は利用者1名に対して、その日に担当した介助者が記入するようになっており、排泄（排尿や排便の回数、排便については量やその形状など）、おしめかトイレか、活動（レクリエーションや体操の開始時間、終了時間）入浴（一般良く、機械浴、足湯、清拭）など、これらの項目は、テンプレートとしてあらかじめ設定されているため、○×や必要事項を記入するようになっている。また、利用者の様子、普段とは違った特筆すべきことが記載されている。本発表では、日本人介護士とベトナム人研修生が記載した自由記述部分を分析対象とする。頻出語ならびに特徴語は、3つの異なるユニット（利用者の介護度により分けられている）で働く日本人介護士3名とベトナム人実習生3名の自由記述部分から抽出した。また、その結果を黄・金丸（2023）の特徴語と比較することで、介護現場で使用される用語と国家試験に出題される用語との差異を明らかにする。

【開始】14:30【終了】14:40【活動内容】散歩【参加】○【活動時間】10 屋上に散歩行かれる。笑顔でお散歩されていた。
【方法】トイレ【排尿】1回 日中不安そうにしておられ、何度もスタッフを呼び「お支払いはできてますの？」「息子には連絡できてんの？」など質問される。おやつ後少し落ち着いた様子でおられる。
午前中入浴される。 特にお変わりなく過される。
【入浴方法】一般浴【入浴】○ お変わりなく入浴される。 出浴後、「トイレに行きたい」と裸のまま立とうとされたが、更衣後に居室に誘導する。
【開始】15:20【終了】15:30【活動内容】運動【参加】○【活動時間】10 テレビ体操に参加する。真似をして体操して下さる。足を組みながら行っていた。
【開始】14:50【終了】15:00【活動内容】運動【参加】○【活動時間】10 テレビ体操に参加する。

図1 介護記録

5. 研究方法

介護記録は利用者ごとに、日本人介護士とベトナム人実習生の2人がExcelを使用し記録している。その中の利用者の様子、家族の来訪などの特筆した自由記述部分を分析対象とした。まず、KH Coderにより、日本人介護士、ベトナム人研修生、各3名の個別の頻出語を抽出し、日本人介護士Aとベトナム人研修生a、日本人介護士Bとベトナム人研修生b、日本人介護士Cとベトナム人研修生cの各ペアの頻出語を比較した。次に、日本人介護士（3名）、ベトナム人実習生（3名）ごとにWeb茶まめ（堤・小木曾 2023）を用いて形態素解析を行い、日本語書き言葉均衡コーパス:BCCWJ（以下、BCCWJ）のコーデータを参照テキストとして、CasualConc（Imao 2013）を用いて、対数尤度比（Dunning 1993）から特徴語の抽出を行った。今回、BCCWJと対数尤度比を用いたのは、黄・金丸（2023）の介護分野の専門用語の特徴語との比較を試みるにあたり、抽出方法もそれに倣ったものであり、テキストサイズに関わらず、妥当な値を示すという対数尤度比の特徴からも、対象データが限られた本研究において最適であると判断したためである。最後に、日本人介護士、ベトナム人研修生、個別の頻出語についてもデータを検証した。対象としたデータは、日本人介護士（延語数：64622 異なり語数：3067）、ベトナム人研修生（延語数：14892 異なり語数：792）である。

6. 結果・考察

6.1 頻出語

まず、KH Coderにより抽出した頻出語について述べる。表1は日本人介護士の上位10語の頻出語を示したものである。日本人介護士A（以下：Aとする）・日本人介護士B（以下：Bとする）・日本人介護士C（以下：Cとする）3名に共通する頻出語は「眠」であり、これは、日本人介護士が夜勤の際、利用者の「睡眠」についての記述することが多かったことの影響が窺える。それに伴い、Aのベッドや良い（眠り）、Bのセンサー、コールなども頻出語として出現したと推察できる。Cは最も介護度の重い利用者のユニットを担当しており、（おしめ）交換、排泄、注入、整容、更衣などの頻出語からも、利用者が日常生活を送る上で、全般的な介助を必要としていたことがわかる。日本語介護

士3名が担当するユニットは、A担当のユニット→B担当のユニット→C担当のユニットの順に介護度の高い利用者が居住している。当然ながら、利用者の介護度によって、必要とされる介助も異なり、使用される語彙も異なるのがわかる。

表1 日本人介護士の頻出語

順位	Aの頻出語	Bの頻出語	Cの頻出語
1	眠	トイレ	交換
2	巡回	誘導	行う
3	良い	仰る	排泄
4	更衣	眠	体
5	眠い	声	交
6	ベッド	訪室	注入
7	夜間	センサー	眠
8	行う	臥床	整容
9	朝	コール	更衣
10	挨拶	端座	入浴

表2 ベトナム人研修生の頻出語

順位	aの頻出語	bの頻出語	cの頻出語
1	体操	入浴	行う
2	参加	参加	排泄
3	リハビリ	体操	交換
4	入浴	リハビリ	注入
5	変わる	交換	体
6	湿る	保	準備
7	保	湿る	パジャマ
8	浴後	変わる	交
9	全身	痛い	入浴
10	塗布	全身	介助

表2は、ベトナム人研修生の介護記録から抽出された、上位10語の頻出語リストである。先述したように、Aとベトナム人研修生a（以下：aとする）、Bとベトナム人研修生b（以下：bとする）、士Cとベトナム人研修生c（以下：cとする）はペアで業務を遂行していた。aとbの頻出語は酷似しており、体操・参加・リハビリ・入浴・保・全身・変わる・湿る、の8語が共通していた。一方、cは他の2名とは、「入浴」のみが共通する頻出語であった。ベトナム人研修生a、bは利用者の入浴介助やレクリエーションなどに関わる介助が多く、頻出語もそれに関連した語彙が出現したと言える。

表3～表5は、Aとa、Bとb、Cとcの頻出語について比較したものである。Cとcについては、Aとa、Bとbとは異なり、頻出語上位10語のうち、交換、行う、排泄、交、注入、入浴、体、の7語が共通している。このユニットに居住している利用者は、最も介護度の高い利用者であり、日本人介護士もベトナム人研修生も勤務のシフトを問わず、同様の介助を行っていたと考えられる。これらの結果から、頻出語は利用者の介護度や介助の種類によって、比較的限定的であると言える。

表3 Aとの頻度語比較

順位	Aの頻出語	aの頻出語
1	眠	体操
2	巡回	参加
3	良い	リハビリ
4	更衣	入浴
5	眠い	変わる
6	ベッド	湿る
7	夜間	保
8	行う	浴後
9	朝	全身
10	挨拶	塗布

表4 Bとbの頻度語比較

順位	Bの頻出語	bの頻出語
1	トイレ	入浴
2	誘導	参加
3	仰る	体操
4	眠	リハビリ
5	声	交換
6	訪室	保
7	センサー	湿る
8	臥床	変わる
9	コール	痛い
10	端座	全身

表5 Cとcの頻出語比較

順位	Cの頻出語	cの頻出語
1	交換	行う
2	行う	排泄
3	排泄	交換
4	体	注入
5	交	体
6	注入	準備
7	眠	パジャマ
8	整容	交
9	更衣	入浴
10	入浴	介助

6.2 特徴語

次に、特徴語の抽出結果について述べる。表6は、日本人介護士とベトナム人研修生の上位10語の特徴語、表7は黄色・金丸(2023:7)の表1の上位10語を抜粋したものである。日本人介護士とベトナム人研修生間においては、「排泄・交換・れる」の3つが共通する特徴語として抽出された。待遇表現の「れる」は利用者の行動や様子を記述する際に使用されていた。これは、介護士がサービスを提供するという立場であること、加えて、介護記録は要求があれば、利用者の家族に見せることを前提に書かれていることが影響していると考えられる。

表6 日本人介護士とベトナム人研修生の特徴語の比較

順位	日本人介護士		ベトナム人研修生	
	語彙	対数尤度	語彙	対数尤度
1	排泄	6877.00417	入浴	7834.20538
2	交換	6706.14198	行う	6509.83997
3	入眠	5615.84176	交換	6063.4047
4	トイレ	5578.88417	リハビリ	5995.81821
5	訪室	5449.94345	排泄	5688.4804
6	誘導	5124.45841	体操	5633.89048
7	仰る	4832.00357	れる	4287.96816
8	れる	4428.33523	注入	4063.25481
9	臥床	4322.91334	交	3572.40876
10	にて	4322.52796	参加	3515.9202

表7 国家試験の特徴語

順位	特徴語
1	利用者
2	認知症
3	訪問介護員
4	訪問介護員
5	介護福祉士
6	介護老人福祉施設
7	傷患者
8	通所介護
9	高齢者
10	要介護

黄・金丸 (2023) 表1より

また、表6で示したように、介護記録と介護福祉士国家試験から抽出された特徴語は、異なることがわかった。介護記録は利用者日常の介助がその中心になるが、介護福祉士国家試験の特徴語からは、全般的な知識が必要とされると考えられる。つまり、実践の場で使用される語彙とは別に、国家試験合格のための知識として知っておかなければならない語彙があるということである。EPAの介護福祉士候補生や外国人の介護従事者が介護福祉士として働くためには、この国家試験に合格する必要がある。業務上覚えなければならない語彙や技術の習得に加えて、国家試験に出題される膨大な語彙も覚えなければならないということは、彼らにとって大きな負担になると考えられる。また、介護日誌だけでなく、申し送り、利用者との対話など、外国人従事者にとって負担は大きい。

7. おわりに

日本人介護士とベトナム人研修生の介護記録の頻出語と特徴語について分析を行った。介護記録の特徴語と国家試験の特徴語とは異なっているのがわかった。外国人介護従事者がスムーズに業務を遂行できるように、また、介護福祉士としてキャリアアップできるようにするには、彼らの負担を軽減する方法を考えなければならない。それには、できるだけ多くのデータを集め、語彙の簡略化や平易化の検討をする必要があるのではないだろうか。

謝辞 調査に協力してくださった施設長・日本人介護士・ベトナム人研修生の方々にお礼を申し上げる。

付記 本研究は国立国語研究所 共同利用型研究 (C) である。

参考文献

- Dunning, T. (1993). Accurate methods for the statistics of surprise and coincidence. *Computational Linguistics*, 19(1), 61-74.
- 遠藤織枝 (2012). 介護現場のことばのわかりにくさ—外国人介護従事者にとってのことばの問題—。介護福祉学, 19(1), 94-100. 日本介護福祉学会
- 遠藤織枝 (2019). わかりにくく難解な介護用語の実際。ことば (34), 73-87.
- Imao, Y. (2013). CasualConc (Version 2.1.2) [Computer software]. Retrieved July 20, 2020, from <https://sites.google.com/site/casualconc/j/download>
- 石川美和 (2008). 介護福祉による「日誌」「申し送り」の諸特徴。ことば, (40), 196-213.
- 黄 海洪・金丸 (2023). 敏幸介護分野における専門用語の平易化に向けた語彙リストの構築国立国語研究所言語資源ワークショップ発表論文集, 1, 26-39.

関連URL

内閣府高齢者版白書 https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2022/html/zenbun/s1_1_1.html (最終アクセス: 2024年1月5日)